

正職員登用を進め本人と家族に安心を

社会福祉法人 一燈園（別府市）

別府市堀田の社会福祉法人「一燈園」（神徳博宗理事長）は、高齢者福祉施設など約30の事業所を運営している。身体や知的、精神に障がいのある20～70代の16人が働いており、高齢者の介護や食事の調理、清掃などに励んでいる。

障がいのある職員の1人、今村夏美さん（28）は南石垣支援学校高等部を卒業後、パート職員として働き始めた。現在はサ―ビス付き高齢者向け住宅・特定施設入居者生活介護「メゾン・ド・いっとうえん」（同市石垣東）で週5日、共用部分や入居者の個室の掃除機がけ、水回りの清掃などを担当している。

「他の職員や入居者の皆さんとコミュニケーションを取りながら働くことを心掛けている」と今村さん。加崎義啓施設長（60）は「真面目に頑張っており、日々成長も感じている」と仕事ぶりを褒める。

一燈園は昨年、「障がい者雇用優良事業所」として県知事表彰を受けた。本部経営企画室の神徳宗紀室長（53）は「社会福祉

法人として、福祉を必要とする全ての人を支えたいとの思いから、高齢者への支援だけでなく、障がいのある人の雇用にも力を入れてきた」と説明する。

今村さんは近く、正職員に登用されることになっており、「一燈園で長く働きたい。福祉関係の資格取得にも挑戦したい」と笑顔を見せる。神徳室長は「障がいのある人の親にとって、自分が亡くなった後の不安は非常に大きい。今後も正職員への登用を積極的に進めることで、働く本人だけでなく、家族の安心につなげたい」と話している。



「一燈園で長く働きたい」と話す今村さん



神徳室長（左）と今村さん